

2 生物の生息空間としての価値

(1) 生物群集によって好みの空間が違う

生物の種類によって明るい草地環境を好むものもあります。また暗い落ち着いた場所を好むものもあります。

現在の放置された里山では後者の環境条件が圧倒的です。今では少なくなった明るい環境をつとめて作り出す視点は必要です。

また各種のタイプの植生を分散的に配置することは重要です。この面積は0.1~0.3haを1単位とすることがよいとされています。



さまざまな植生があると生物種は豊かになる



里山要素が多くみられる



再生された谷戸

(2) 連続性

雑木林と畑が連続的に続く場所では、いろいろな生物が異なった植生の間を行き来しており、全体で生物の多様性を維持することが重要です。



昭和40年代の連続性がみられる里山